

おにぎり同時作成ギネス記録挑戦:完全ガイド

現在の記録状況

最新記録

「最多人数での同時おにぎり作り」 - 記録: 1,876人 - 達成日: 2017年11月5日 - 記録保持者: 公益社団法人日本青年会議所 川崎JC - 開催地: 神奈川県川崎市 - 総参加者数: 1,980人 - 失格数: 104人(失格率5.3%)

記録の歴史的意義

川崎は江戸時代の東海道の宿場町として、携帯に便利な三角形のおにぎりが誕生した場所とされており、おにぎり発祥の地としての歴史的背景を持っています。この文化的意義が記録挑戦に深い意味を与えました。

2016年の記録更新ラッシュ

2016年には、わずか約4ヶ月間で**6つの新記録が次々と樹立**される異例の競争が繰り広げられました。この歴史から成功のパターンを学ぶことができます。

記録更新の詳細推移

1. 帯広大谷高校（北海道）

- 日付: 2016年7月8日
- 人数: 845人
- 会場: 帯広大谷高校
- イベント: 学校の文化祭の一環

- **特徴:** 初めての大規模な同時作成記録

2. 能代市（秋田県）

- **日付:** 2016年7月17日
- **人数:** 858人（907人が挑戦）
- **主催:** 能代市青年会議所
- **失格数:** 49人（失格率5.4%）
- **更新期間:** わずか9日後

3. 湯川村（福島県）

- **日付:** 2016年10月9日
- **人数:** 976人
- **特徴:** 100人以上の大幅な記録更新

4. 旭川市（北海道）

- **日付:** 2016年10月10日
- **人数:** 1,273人（1,292人が挑戦）
- **主催:** 上川地区農業協同組合
- **イベント:** 秋の収穫祭2016
- **使用米:** 北海道産「ゆめぴりか」（プレミアム品種）
- **失格数:** 19人（失格率1.5%）
- **特徴:** 翌日に記録更新という驚異的なスピード

旭川市の厳格な審査基準: - 各おにぎりに梅干し1個を中に入れる - 制限時間5分以内 - おにぎりの形が保たれていること - 梅干しが外から見えないこと - 最低重量・サイズの基準を満たすこと - 公式審判員が全てのおにぎりを個別検査

5. 鳥取市（鳥取県）

- **日付:** 2016年10月16日
- **人数:** 1,436人
- **会場:** 美保南小学校
- **特徴:** 旭川市の記録発表を受けて参加者数を増員

6. 桑名市（三重県）

- **日付:** 2016年11月3日
- **人数:** 1,621人（1,670人が挑戦）
- **失格数:** 49人（失格率2.9%）
- **特徴:** 2016年の最終記録

この競争から学べる重要ポイント

- **メディア効果:** 各記録達成がニュースとなり、他地域の挑戦を刺激
- **地域活性化:** 地方自治体や農協が地域PRとして活用
- **コミュニティ結束:** 学校、企業、住民が一体となって参加
- **スピード感:** 記録更新の情報が伝わると、数週間で次の挑戦が実現
- **失格率の管理:** 適切な事前練習により失格率を1.5-5.4%に抑制

記録達成の技術的要件

基本ルール

制限時間: 5分以内

おにぎりの条件: 1. 梅干し1個を中に入れる 2. 梅干しが外から見えない状態にする 3. おにぎりの形が崩れていない 4. 最低限の重量とサイズを満たす 5. 審判員の個別検査に合格する

失格となる理由

- **梅干しが見える:** 最も多い失格理由
- **形が崩れている:** 握りが弱い、米がポロポロ落ちる
- **サイズ不足:** 小さすぎるおにぎり
- **重量不足:** 米の量が少なすぎる
- **時間超過:** 5分以内に完成しなかった

失格率の実績データ

| 開催地 | 挑戦者数 | 成功者数 | 失格数 | 失格率 |
|-----|-------|-------|-----|------|
| 旭川市 | 1,292 | 1,273 | 19 | 1.5% |
| 桑名市 | 1,670 | 1,621 | 49 | 2.9% |
| 川崎市 | 1,980 | 1,876 | 104 | 5.3% |
| 能代市 | 907 | 858 | 49 | 5.4% |

分析: 失格率は1.5-5.4%の範囲。2,200人規模の挑戦では、33-119人の失格を見込む必要があります。

2026年5月挑戦の具体的計画

開催概要

- **開催地:** 福岡県糸島市
- **開催日:** 2026年5月30日（土）または31日（日）
- **目標:** ギネス世界記録更新（現記録1,876人超え）

目標設定

推奨目標: 2,000人以上の成功 - 現記録(1,876人)を約6.6%上回る - 挑戦者総数: 2,200人を募集（最低ライン2,100人、詳細はリスク1を参照） - 予想失格率を5%と仮定して余裕を持たせる（ $2,200 \times 0.95 = 2,090$ 人）

タイムライン（約3.5ヶ月計画）

第1段階: 企画立案（2月中旬-2月下旬、2週間）

Week 1: - 実行委員会の立ち上げ - 予算概算の作成 - 会場候補地のリストアップ - スポンサー候補企業のリスト作成

Week 2: - ギネス申請の開始・完了（2月中の完了を推奨、標準審査12週間の余裕確保） - 自治体・農協への協力依頼 - 会場の仮予約 - 米の調達先との初期交渉 - 保健所への事前相談（糸島保健所、大規模食品

イベントの届出要件確認） - 消防署への届出・避難計画の事前協議（2,500人超の屋内催事届出、避難経路の確認）

第2段階: 準備・募集（3月上旬-4月下旬、8週間）

Week 3-4（3月上旬）： - 会場の正式契約 - 実行委員会の組織体制確立 - プレスリリース第1弾の配信 - 参加者募集開始（オンライン・ポスター・チラシ）

Week 5-6（3月中旬-下旬）： - 参加者募集の集中追い込み - **募集締切: 3月末（第1回練習会4/4の前に全参加者を確定）** - 米（240kg）の正式発注 - 梅干し（4,700個）の調達 - ボランティアスタッフ募集（250-300人） - メディア取材の受付開始 - SNSでの情報拡散

Week 7-8（4月上旬-中旬）： - 全参加者（目標2,200人）の登録確定済みを前提に練習会を開始 - 完結型練習会 第1回・第2回の開催（4/4土、4/12日） - 練習会第1回で動画マニュアル素材を撮影（スマートフォンで講師実演・手順を収録） - セクションリーダー候補の選出・声かけ - 審判員チームの編成 - 会場レイアウトの決定

Week 9-10（4月中旬-下旬）： - 完結型練習会 第3回・第4回の開催（4/18土、4/26日） - 練習会参加状況の集計・未参加者へのリマインド - ボランティアスタッフ初期オリエンテーション（役割説明・当日の流れ共有） - 当日運営マニュアルの作成

第3段階: 最終準備（5月上旬-5月下旬、約4週間）

Week 11-14（5月上旬-下旬）： - ギネスからの承認・ガイドライン受領の確認（未受領の場合はギネスへ問い合わせ） - ガイドラインに基づく審査方法・証拠収集方法の最終調整 - 動画マニュアル完成・練習会未参加者へ配信 - 参加者最終確認 - 材料の最終チェック - 会場設営のリハーサル - セクションリーダー専用研修の実施（5月中旬） - 審判員トレーニングの実施（5月第4週、本番1週間前） - ボランティアスタッフの最終研修 - メディア向け最終プレスリリース - 緊急連絡網の確認

第4段階: 実行当日（5月最終週末）

推奨日時: 2026年5月30日（土）または31日（日）午前 - 気候が安定し屋外会場も選択可能（雨天対策として屋内会場を推奨） - コア時間帯は午前10時～11時30分（挑戦・審査・結果発表・閉会式） - スタッフの準備開始は7時、片付け完了は13時（会場使用は計6時間）

会場選定の基準

必須条件

収容能力: - 2,500人以上が同時に入場可能 - 参加者1人あたり約1.5㎡の作業スペース（テーブル・立ち作業スペース・審判員通路を含む） - 総面積: 3,750-4,500㎡以上（参加者エリア約3,300㎡＋ステージ・受付・スタッフ動線等）

設備要件: - 作業用長机（1.8m折りたたみ机 約550台、片側4人配置、レンタル対応可） - 手洗い設備が充実（感染症対策） - 屋内施設（雨天対策） - 空調設備（換気対策） - 駐車場（会場内500台＋臨時駐車場400台以上を確保、またはシャトルバス運行で対応） - トイレ設備（50個以上） - 音響設備（アナウンス用） - 電源設備（記録撮影・照明用） - 見学エリア（100-200㎡、会場内の安全な区画。未就学児同伴の家族等が利用） - バリアフリー対応（車椅子アクセス経路、多目的トイレ、車椅子利用者向け作業位置の確保）

候補施設タイプ

・体育館・アリーナ

- ・メリット: 広大なフラットスペース、音響設備完備
- ・デメリット: 手洗い設備が限定的な場合がある
- ・例: 市民体育館、総合スポーツセンター

・展示会場・コンベンションセンター

- ・メリット: 大規模収容、充実した設備
- ・デメリット: 使用料が高額
- ・例: 見本市会場、産業展示場

・大学・高校の体育施設

- ・メリット: 比較的安価、若者の参加促進
- ・デメリット: 利用制限がある場合も
- ・例: 大学の総合体育館、高校の大講堂

予算計画

収入の部（概算）

| 項目 | 金額 | 備考 |
|-------------|------------|----------------------------------|
| 参加費（割引適用込み） | ¥1,650,000 | 下記の割引適用を考慮 |
| スポンサー収入 | ¥3,200,000 | 下記スポンサーメニューを参照 |
| 自治体補助金 | ¥400,000 | 糸島市地域振興補助金・福岡県イベント助成金等 |
| クラウドファンディング | ¥300,000 | リターン: 記念グッズ、当日優先見学席等 |
| 物販・グッズ販売 | ¥300,000 | 記念Tシャツ等 |
| 出店料収入 | ¥200,000 | 飲食・物販ブース10-20店（¥10,000-20,000/店） |
| 収入合計 | ¥6,050,000 | |

スポンサーメニュー（想定）：

| ランク | 口数 | 単価 | 小計 | 主な特典 |
|--------|-----|------------|------------|-------------------------------|
| 冠スポンサー | 1社 | ¥1,000,000 | ¥1,000,000 | イベント名に社名冠、全メディア露出、ステージ挨拶 枠 |
| ゴールド | 2社 | ¥500,000 | ¥1,000,000 | 横断幕掲示、プレスリリース掲載、ブース出展権 |
| シルバー | 3社 | ¥200,000 | ¥600,000 | ポスター・チラシにロゴ掲載、会場内バナー |
| ブロンズ | 6社 | ¥100,000 | ¥600,000 | パンフレットにロゴ掲載 |
| 合計 | 12社 | | ¥3,200,000 | |

冠スポンサー候補: JA糸島（米の提供を現物協賛に含む可能性あり）、地元金融機関、福岡都市圏の食品企業

参加費の内訳（ターゲット層に基づく想定）： - 一般個人（¥1,000）：約220人 = ¥220,000 - 家族割引（¥800）：約660人 = ¥528,000 - 学生割引（¥500）：約550人 = ¥275,000 - 団体割引（¥800）：約440人 = ¥352,000 - シニア割引（¥800）：約330人 = ¥264,000 - 合計: 約¥1,639,000 → 切り上げ¥1,650,000

支出の部（概算）

| 項目 | 金額 | 備考 |
|--------------|------------|--|
| 会場費 | ¥300,000 | 市営体育館等の公共施設を想定（練習会4回+本番、民間施設の場合は増額の可能性あり） |
| 米の調達（240kg） | ¥96,000 | プレミアム米¥400/kg（本番+練習会4回分） |
| 梅干し（4,700個） | ¥188,000 | 1個¥40（本番+練習会4回分） |
| 容器・ラップ等消耗品 | ¥200,000 | 使い捨て容器、手濡らし用水容器等 |
| テーブル・作業台レンタル | ¥350,000 | 1.8m長机約550台（片側4人配置） |
| ギネス優先審査 | ¥600,000 | 5営業日で承認（詳細はギネス申請プロセスを参照） |
| ギネス公式審判員派遣 | ¥2,000,000 | 当日認定・証拠収集負担軽減（実費¥1,500,000-3,000,000、中間値で計上） |
| 審判員・スタッフ人件費 | ¥500,000 | ボランティア謝礼含む |
| 広告宣伝費 | ¥400,000 | ポスター、チラシ、Web |
| 映像・記録撮影 | ¥300,000 | プロカメラマン、ドローン |
| 音響・設備レンタル | ¥200,000 | マイク、タイマー表示 |
| 保険料 | ¥100,000 | イベント保険 |
| 物販制作費 | ¥150,000 | 記念Tシャツ等の制作原価 |
| その他雑費 | ¥250,000 | 廃棄物処理費・臨時駐車場シャトルバス費用等 |
| 予備費 | ¥416,000 | 想定外の支出に備える |
| 支出合計 | ¥6,050,000 | |

※ 公式審判員派遣費は実費¥1,500,000-3,000,000の幅があり、中間値¥2,000,000で計上。見積もり確定後に調整のこと。

材料の必要量算出根拠:

米: - おにぎり1個あたり生米約45g（本番・練習会ともに1人1個、ギネス挑戦と同条件） - 本番2,200人分: 約100kg - 練習会4回（各550人 × 45g ≈ 各約25kg）: 約100kg - 予備20%込み: 合計約240kg

手濡らし用水: - おにぎりを握る際、手に米がつかないように水で手を濡らす必要がある - 1人1個の水容器（使い捨てカップまたは小皿）を各作業位置に配置 - 本番2,200個 + 練習会4回分2,200個 + 予備 = 約4,600個（消耗品費に含む） - 清潔な水をポリタンク等で確保し、配膳時にあわせて注水

炊飯設備: - 本番用約100kgを当日早朝に別施設で炊飯（4:00-7:00、詳細はタイムテーブル参照） - 練習会は各回約25kgを同様に事前炊飯し、握れる温度に冷却した状態で提供 - 大型炊飯器（5升炊き）15-20台（本番）、または防災用炊き出し大釜の借用 - 農協・自治体の防災備蓄設備の活用を優先し、不足分はレンタル（その他雑費に含む）

梅干し: - 本番2,200人分 + 予備: 2,300個 - 練習会4回（各550人想定）: 2,200個 - 予備: 200個 - 合計: 4,700個

収支: 収入¥6,050,000 - 支出¥6,050,000 = **±¥0**（予備費¥416,000を計上済み）

参加者募集戦略

ターゲット層

- ・**家族連れ（30%、660人）**
 - ・親子でのイベント参加
 - ・週末のファミリーアクティビティ
 - ・子供の食育・文化体験
- ・**学校・教育機関（25%、550人）**
 - ・小中学校のクラス単位参加
 - ・学生サークル
 - ・PTA組織
- ・**企業・団体（20%、440人）**
 - ・CSR活動としての参加
 - ・チームビルディング
 - ・地域貢献活動
- ・**高齢者・コミュニティ（15%、330人）**

- 老人会・シニアクラブ
- 地域コミュニティセンター
- 趣味サークル
- **一般個人（10%、220人）**
- ギネス記録への興味
- 新しい体験を求める人々
- SNS発信目的

募集チャンネル

オンライン（50%）：- 専用Webサイトの開設 - SNS広告（Facebook、Instagram、X（旧Twitter）） - 地域情報サイトへの掲載 - オンライン申込みフォーム

オフライン（50%）：- 市役所・公民館でのポスター掲示 - 学校への直接案内 - 地域新聞への広告掲載 - 回覧板・地域掲示板

参加費設定

推奨参加費：¥1,000/人 - 家族割引：3人以上で¥800/人 - 学生割引：小中高校生¥500 - シニア割引（65歳以上）：¥800 - 団体割引（20人以上）：¥800/人

参加条件

- **対象年齢**：小学生以上（おにぎりを自力で1個作れること）
- **小学生の参加**：保護者の同伴・同席が必要（保護者も参加者として登録）
- **未就学児**：安全上の理由から参加不可（見学エリアにて保護者と待機可）
- **アレルギー確認**：使用する梅干しの原材料（はちみつ・大豆等の有無）を事前に公表し、参加申込時にアレルギーの有無を確認する。アレルギー該当者への対応（代替具材の使用可否等）はギネス側と事前協議

事前練習プログラム

練習会の設計方針

各参加者が**1回の参加で全スキルを習得**できる完結型セッションを設計し、それを複数回開催することで全参加者をカバーする。段階的カリキュラム（基礎→応用→実践）ではなく、1回で基礎から本番シミュレーションまでを一貫して行う方式を採用する。

メリット: - 参加者の日程調整が容易（1回参加で完結） - 家族連れ・シニア層の参加離脱を防止 - 材料費を抑えつつ全員に均等な練習機会を提供 - 1回あたり550人規模で質の高い指導が可能

練習会の開催（参加を強く推奨）

目的: 失格率を5%以下に抑える

開催回数: 4回（同一内容） - 第1回: 4月第1週（土曜） - 第2回: 4月第2週（日曜） - 第3回: 4月第3週（土曜） - 第4回: 4月第4週（日曜）

各回の定員: 約550人（4回 × 550人 = 2,200人をカバー）

各参加者は上記のいずれか1回に参加。申込時に希望日を選択し、定員管理を行う。参加者募集は3月末に締め切り、4月の練習会開始前に参加希望者全員の参加回を確定させる。

完結型セッション（120分）

本番と同じく**1人1個のおにぎり作成**を練習する。講師実演と失格例研究で知識を付けた上で、本番シミュレーションで実際に1個作成する構成。

| 時間 | 内容 | 詳細 |
|-----------|------------|---|
| 0:00-0:15 | オリエンテーション | ギネス記録の歴史と意義、当日の流れ |
| 0:15-0:45 | 実演・解説 | 講師が実演しながら解説（手洗い、計量、梅干し配置、握り方のコツ） |
| 0:45-1:05 | 失格例の研究 | 合格・不合格の実物比較、よくある失敗パターンと回避方法 |
| 1:05-1:25 | 本番シミュレーション | 本番と同条件で 1人1個 作成（5分計時、審判チェック、個別フィードバック） |
| 1:25-1:50 | 振り返り・改善指導 | 結果の講評、成功のコツ共有、改善ポイントの個別アドバイス |
| 1:50-2:00 | 質疑応答 | 当日の注意事項、簡易マニュアルの配布 |

練習会の運営体制（各回共通）

各回550人の参加者に対し、以下のスタッフを配置する。

| 役割 | 人数 | 備考 |
|----------|--------|---|
| 講師（ステージ） | 1-2人 | 実演・解説・失格例研究を担当 |
| 巡回指導員 | 20-30人 | シミュレーション中の個別チェック・フィードバック（セクションリーダー候補を兼ねる） |
| 練習用審判員 | 20-25人 | おにぎりの合否判定練習（本番審判員のトレーニングを兼ねる） |
| 受付・誘導 | 5-10人 | 参加者受付、座席案内 |
| 材料準備 | 5-10人 | 炊飯済み米・梅干し・水容器の配膳 |

合計: 約50-75人/回

練習会の巡回指導員・練習用審判員は、本番のセクションリーダー・審判員の候補者がそのまま務めることで、指導側も実践経験を積むことができる。

セクションリーダー制

当日の現場フォロー体制として、**セクションリーダー**を配置する。

人数: 約110人（参加者20人に1人）

役割: - 当日、自分の周囲20人の参加者をサポート - 手順のリマインド、梅干しの隠し方のアドバイス - 困っている参加者への声かけ

選出対象: ボランティアスタッフ、学校の先生、企業の担当者、町内会リーダーなど

追加研修: 練習会に加え、セクションリーダー専用の研修を**1回（60分）**受講 - 審判基準の詳細理解 - よくある失敗への対処法 - 周囲のフォロー方法の実践練習 - 開催時期: 5月中旬（本番約2週間前）

当日の運営体制

人員配置

運営スタッフ総数: 約410人（うちセクションリーダー110人は参加者兼任）

| 役割 | 人数 | 業務内容 |
|-----------|------|-------------------------------------|
| 総合指揮 | 5人 | 全体統括、意思決定 |
| 受付・誘導 | 50人 | 参加者受付、会場案内 |
| 審判員 | 100人 | おにぎり検査（1人約22個担当） |
| 記録・撮影 | 20人 | ビデオ・写真撮影、データ記録 |
| 時間管理 | 10人 | タイマー操作、時間告知 |
| 材料配布 | 30人 | 米・梅干しの配布 |
| 医療・安全 | 10人 | 応急処置、安全管理、避難誘導 |
| 清掃・衛生 | 20人 | 手洗い場管理、清掃、廃棄物分別・回収（うち1名は食品衛生責任者を配置） |
| メディア対応 | 5人 | 取材対応、プレス窓口 |
| セクションリーダー | 110人 | 参加者20人に1人、現場フォロー |
| 予備要員 | 50人 | 緊急対応、補助業務 |

タイムテーブル（当日）

4:00-7:00 炊飯準備（別施設・炊飯チーム先行） - 4:00: 炊飯チーム集合（材料配布スタッフから10-15人選出）、農協施設・公民館調理室等の別施設にて作業 - 4:00-5:00: 洗米・浸水（本番用約100kg） - 5:00-6:30: 炊飯（大型炊飯器または炊き出し用大釜を使用） - 6:30-7:30: 冷却（握れる温度30-40℃まで、大きなバットに広げて効率的に放熱） - 7:30-8:00: 冷却完了分を会場へ搬入（保冷カバー付き容器で搬送） - 8:00-9:00: 会場にて個別計量・ラップ包装（1人分約100g〈生米45g相当〉ずつトレイに配置。材料配布スタッフ30人＋炊飯チーム15人の計45人体制で実施。包装後は直射日光を避けた涼所で一時保管） - 9:00-9:25: 受付完了ゾーンから順次、米・梅干し・水容器を各参加者の席に配膳（材料配布30人を3班×10人に分け、各班が3-4ゾーンを担当。1ゾーン約200席を10人で配膳、所要約5分/ゾーン） - 9:25-9:30: 全ゾーンの配膳完了を材料配布班長が総合指揮へ報告。炊飯チームは9:00の計量完了後に交代休憩

※ 炊飯は会場外の別施設（農協の調理設備・公民館調理室・防災炊き出し用大釜等）で実施し、炊飯済み米を会場へ搬入する。これにより会場使用時間は7:00-13:00の6時間を維持する。設備借用・レンタル費用はその他雑費に含む。 ※ **温度管理:** 炊飯後の米は危険温度帯（10-60℃）を通過するため、冷却→搬入→配膳→使用の各工程で滞留時間を最小化する。保健所との事前相談時に、本計画の温度管理タイムライン（炊飯完了→使用まで約3.5時間）について承認を得ること。

7:00-8:30 準備 - スタッフ集合・最終ブリーフィング - 会場設営完了確認 - 材料（炊飯済み米の搬入受け入れ・梅干し）の最終チェック - 撮影機材のセットアップ - 音響・タイマー動作確認

8:00-9:30 受付 - 参加者受付開始（90分間で2,200人を処理、50窓口×1人約2分） - ギネス証拠用の参加者リストへの署名（受付時に実施） - 撮影・肖像権の同意確認（参加申込時にオンラインで事前同意済み、当日は確認のみ） - 番号札配布（ゾーン記号入り、会場はA-Kの11ゾーンに分割・各約200人） - 誘導スタッフがゾーン入口まで案内 - 体調確認

9:30-9:50 開会式 - 主催者挨拶 - 来賓挨拶 - ギネス公式説明 - ルールの最終確認 - メディア撮影タイム

9:50-10:00 最終準備・リマインド - ステージでの手順リマインド実演（梅干しの包み方、握り方のコツ、よくある失格例の注意喚起） - 手の清潔確認（配布済みの水容器で手を濡らす手順を案内） - 審判員の配置完了 - カメラ準備完了

10:00-10:05 挑戦開始 - カウントダウン - **10:00:00 スタート** - 5分間の挑戦 - 各段階での時間告知（残り3分、2分、1分、30秒）

10:05-10:45 審査（巡回検査方式） - 審判員が担当エリア（各約22人）を巡回し、各参加者の作業位置でおにぎりを検査 - 合格・不合格の判定（判定記録シートに記入） - 各エリアの集計を審判長に報告、独立2チームによるダブルチェック - **参加者は審査完了まで着席を維持**（セクションリーダーが声かけ） - ステージでは記録の歴史紹介映像・糸島市PRコンテンツを上映し、待機時間を有効活用

10:45-11:00 結果発表 - 成功者数の発表 - ギネス記録達成の宣言 - 記念撮影 - 参加者全員への感謝

11:00-11:30 閉会式 - ギネス認定証の授与（後日の場合は仮証書） - 参加証明書の配布 - メディアインタビュー - 参加者は自分のおにぎりを持ち帰り（**持ち帰り後は2時間以内の喫食を推奨**、注意書きカードを配布）

11:30-13:00 片付け - 廃棄物の分別回収（食品廃棄物・プラスチック・一般ごみの3分別） - 会場清掃 - 機材撤収 - スタッフ慰労会

審査基準と検査プロセス

審判員の訓練

必須トレーニング: 当日1週間前に実施

訓練内容: 1. ギネス規定の詳細説明 2. 合格・不合格の判定基準 3. サンプルおにぎりでの判定練習 4. 境界線ケースの判断方法 5. 記録シートの記入方法

検査チェックリスト

各審判員は以下の項目を確認:

- ✓ **形状:** - 三角形または丸型が保たれているか - 崩れや変形がないか
- ✓ **梅干しの位置:** - 外から見えていないか - 完全に米で覆われているか
- ✓ **サイズ:** - 最低基準を満たしているか - 目視および必要に応じて計測
- ✓ **重量:** - 適切な米の量を使用されているか - 軽すぎないか（抜き取り検査）
- ✓ **完成度:** - 時間内に完成しているか - 食品として適切な状態か

判定プロセス

- **1次検査（目視）:** 全審判員が担当分を目視
- **疑義ある場合:** 上級審判員が再検査
- **最終判定:** 審判長が判断
- **集計:** 合格数を複数人で確認
- **ダブルチェック:** 独立した2つのチームで集計

記録・証拠の収集

必須の記録資料

ビデオ記録: - メインカメラ: 会場全体を俯瞰（高所固定カメラ推奨。ドローン使用時は航空法に基づく許可申請・施設管理者の承認が必要） - サブカメラ1: 参加者の作成風景（複数アングル） - サブカメラ2: タイマー表示の連続撮影 - サブカメラ3: 審査プロセスの記録 - 最低要件: 開始から終了まで連続した記録

写真記録: - 開始前: 全参加者の集合写真 - 進行中: 作成風景（多数） - 完成後: 完成したおにぎりの配列 - 審査中: 審判員による検査風景 - 最低300枚以上の写真

文書記録: - 参加者全員の署名入り参加者リスト - 証人（第三者）の宣誓書 - タイムキーパーの記録シート - 審判員の判定記録シート（全数分） - 気象条件・温度などの環境データ - 参加者全員の撮影・肖像権同意書

証人の手配

独立した証人: 最低2名必要 - 弁護士、公認会計士、公証人など - イベントに利害関係のない第三者 - 開始から終了まで立ち会い - 署名入り証明書を作成

ギネス申請プロセス

標準申請（無料）

申請方法: 1. ギネス公式サイトでアカウント作成 2. 「Apply for a record」を選択 3. 既存の記録カテゴリーを選択 4. 挑戦予定日を入力 5. 審査完了後、承認通知とともにガイドライン資料が送付される（申請直後には届かない）

審査期間: 最大12週間

注意（スケジュールリスク）: 3月上旬に申請完了した場合、審査完了は最大で5月下旬となり、5月30日の本番直前まで承認が得られない可能性がある。**2月中に申請を完了するか、優先審査の利用を強く推奨する。**

メリット: 費用がかからない

デメリット: - 審査に時間がかかる - 公式審判員の派遣なし - 証拠収集が複雑

優先審査（有料: 約¥600,000）

申請方法: 1. 標準申請と同様の手順 2. 優先審査オプションを選択 3. 支払い手続き

審査期間: 5営業日

メリット: - 迅速な承認 - 専任コンサルタントのサポート - ガイダンスが詳細

デメリット: - 高額な費用 - それでも公式審判員派遣は別料金

公式審判員派遣（予算計上済み）

費用: 別途見積もり（通常¥1,500,000-¥3,000,000）

メリット: - 当日その場で認定 - 証拠収集の負担軽減 - メディア効果が最大化 - 参加者の達成感が即座に得られる

検討: - スポンサー収入で賄えるか - メディア効果を金額換算すると妥当か - 地域の記念事業として位置づけられるか

リスク管理と対策

想定されるリスク

- 1. 参加者不足 - リスク:** 目標人数に達しない - **対策:** - 早期募集開始（3ヶ月前） - 複数の募集チャネル活用 - 参加特典の充実 - キャンセル待ちリスト作成（募集締切後のキャンセル補充用） - **3月末時点の判断基準:** - **2,100人以上:** 予定通り実施 - **1,900-2,099人:** 続行（記録更新は十分可能）、追加募集を4月第1週まで延長し、練習会第1回に間に合わせる - **1,900人未満:** 実行委員会で続行/延期を協議（失格率5%で1,805人となり、現記録1,876人を下回るリスクが高い）
- 2. 失格率の上昇 - リスク:** 予想以上の失格で記録未達 - **対策:** - 完結型練習会への参加を強く推奨（全4回のいずれか1回）、参加率80%以上を目標 - 練習会未参加者には動画マニュアル・図解ガイドを事前送付し、自主練習を促す - 練習会参加率が70%を下回った場合、追加練習会（5月上旬）の開催を検討 - 挑戦者を5-10%多く募集 - セクションリーダーによる当日の現場フォロー - 当日開始前の10分間リマインド実演（9:50-10:00、材料配布と同時進行） - 図解入り簡易マニュアルの配布
- 3. 材料の問題 - リスク:** 米や梅干しの品質・数量不足 - **対策:** - 予備材料の確保（米20%、梅干し約7%） - 信頼できる複数の調達先 - 事前の品質チェック - 当日朝の最終確認
- 4. 設備トラブル - リスク:** タイマー故障、映像機器の不具合 - **対策:** - 全機器のバックアップ用意 - 前日の動作確認 - 技術スタッフの常駐 - マニュアル記録も併用
- 5. 天候・災害 - リスク:** 台風、大雨、地震などの不可抗力 - **対策:** - 屋内会場の選択（必須） - 予備日はギネス公式審査員の出席調整等を考慮し設けない予定（屋内会場で天候リスクを回避） - 中止基準の明確化（地震等の不可抗力のみ） - 返金ポリシーはリスク7を参照
- 6. 感染症対策 - リスク:** インフルエンザ、ノロウイルス等 - **対策:** - 手洗い・消毒の徹底 - マスク着用推奨 - 体調不良者の参加辞退要請 - 医療スタッフの配置 - 食品衛生管理の徹底
- 7. スポンサー・補助金収入の未達 - リスク:** スポンサー収入（¥3,200,000、収入の53%）や補助金・クラウドファンディングが目標に届かない - **対策:** - スポンサー交渉は第1段階（2月中）に開始し、3月上旬までに冠・ゴールドの確約を優先取得 - 自治体補助金は2月中に申請（審査に1-2ヶ月を見込む） - クラウドファンディングは3月上旬に開始（募集期間45日間） - スポンサー確定額に応じて支出項目を調整（広告宣伝費・映像記録費等の削減） - **収入確保の優先順位:** スポンサー → 補助金 → クラウドファンディング → 参加費値上げ（最終手段） - **返金ポリシー:** 参加費は理由を問わず返金不可（天候・災害等の不可抗力を含む）。収入状況にかかわらずイベントは実施する
- 8. 挑戦前の記録更新 - リスク:** 2026年5月までに他団体が現記録（1,876人）を更新する - **対策:** - ギネス公式サイトで記録の動向を定期的に確認（月1回以上） - 新記録が判明した場合、目標人数の上方修正または募集人数の追加を検討 - 新記録が大幅に上回る場合（例: 2,500人超）、実行委員会で挑戦継続の可否を判断

保険の加入

イベント保険: 必須 - 施設賠償責任保険 - 参加者傷害保険 - 主催者賠償責任保険 - 費用総額: 約¥100,000

広報・メディア戦略

プレスリリースの展開

第1弾（3月中旬）: 挑戦発表 - タイトル: 「ギネス世界記録に挑戦！おにぎり同時作成2,000人規模イベント開催」 - 内容: イベント概要、参加者募集開始、主催者の思い

第2弾（4月中旬）: 進捗報告 - タイトル: 「全2,200人の参加者確定！練習会も順調に進行中」 - 内容: 参加者確定報告、協賛企業紹介、練習会の様子

第3弾（5月中旬）: 直前告知 - タイトル: 「いよいよ月末！2,000人でおにぎり作りギネス世界記録に挑戦」 - 内容: 最終参加者数、当日スケジュール、見学案内

第4弾（当日夜または翌日）: 結果速報 - タイトル: 「ギネス世界記録達成！〇〇人でおにぎり同時作成の新記録」 - 内容: 結果詳細、参加者コメント、記録認定の見通し

メディア対応

取材受入れ: - 地元テレビ局（NHK、民放各局） - 全国ネットワークニュース - 地域新聞社 - 雑誌・ウェブメディア - YouTuber・インフルエンサー

プレス向け特典: - 専用撮影エリアの設置 - 事前資料の配布 - 主催者・参加者インタビュー機会 - 記録達成後の優先取材権

SNS戦略

公式アカウント開設: - X（旧Twitter）: リアルタイム情報発信 - Instagram: ビジュアル重視の投稿 - Facebook: イベントページ作成 - YouTube: 練習会や準備風景の動画

ハッシュタグ: - #ギネス世界記録 - #おにぎり同時作成 - #糸島市ギネス挑戦 - #onigiri - #GuinnessWorldRecords

投稿計画: - 週3回以上の定期投稿 - カウントダウン投稿（当日まで） - 参加者紹介シリーズ - 裏側・準備風景の公開 - ライブ配信（当日）

記録未達の場合

失格率が想定を超え、成功者数が現記録（1,876人）に届かなかった場合：

- ・参加者へ：挑戦したこと自体の価値を強調し、参加証明書は全員に配布する
- ・メディアへ：「次回への布石」としてポジティブに発信（「〇〇人が参加した糸島市の挑戦」）
- ・再挑戦：6ヶ月以内に再挑戦の時期を設定し、今回の参加者に優先案内を行う
- ・振り返り：失格率・運営上の課題を分析し、次回計画に反映する

記録達成後の展開

短期的施策（1ヶ月）

1. 公式認定の取得 - イベント後2週間以内にギネスへ証拠資料を提出（担当：記録・撮影チーム責任者） - 提出物：編集済みビデオ、写真(300枚以上)、署名入り参加者リスト、証人宣誓書、審判員判定記録、タイムキーパー記録、撮影同意書 - 認定審査期間：提出後4-8週間（追加質問への対応窓口を維持） - 認定証到着後の記念式典
2. 地域への還元 - 参加者全員への参加証明書配布 - 記録達成報告会の開催 - 地域メディアでの継続報道
3. 記録の活用 - 観光PR素材として活用 - 地域ブランド向上 - 次年度イベントへの布石

中長期的施策（1年）

1. 定例イベント化 - 年1回の「おにぎりの日」制定 - ギネス記録の更新挑戦 - 地域の名物行事として定着
2. 経済効果の拡大 - 地元米の販売促進 - 観光客の誘致 - 関連商品の開発
3. 教育・文化振興 - 学校教育への組み込み - 食育プログラムの展開 - 日本文化の発信

成功事例から学ぶ重要ポイント

旭川市の成功要因（1,273人、2016年）

- ・地域農協の全面支援：上川地区農協が主催し、組織力を活用
- ・プレミアム米の使用：北海道ブランド「ゆめぴりか」で話題性
- ・厳格な品質管理：失格率1.5%という驚異的な低さ
- ・収穫祭との連動：既存イベントとの組み合わせで動員力向上

- **徹底した事前練習:** 参加者への丁寧な指導

川崎JCの成功要因（1,876人、2017年）

- **歴史的意義の強調:** おにぎり発祥の地という文化的背景
- **青年会議所のネットワーク:** 全国組織の動員力
- **子供の夢支援:** 社会的意義のあるテーマ設定
- **メディア戦略:** 事前から当日まで継続的な露出
- **2,000人近い参加者:** 余裕を持った人数設定

成功のための黄金律

- **目標人数+5-10%を募集:** 失格率を見込んだ設定
- **完結型練習会への参加推奨:** 4回開催で全員カバー、失格率を5%以下に抑制
- **地域組織との連携:** 自治体・農協・企業の協力
- **社会的意義の設定:** 単なる記録挑戦以上の価値
- **メディア戦略の徹底:** 約2.5ヶ月前からの継続的露出
- **充実した当日運営:** 約300人のスタッフ+110人のセクションリーダー体制
- **完璧な記録・証拠:** ビデオ・写真・文書の3点セット

最終チェックリスト

3ヶ月前までに完了すべき事項

- ☐ 実行委員会の立ち上げ
- ☐ 予算計画の承認
- ☐ ギネス申請の完了（2月中を推奨）
- ☐ 会場の仮予約
- ☐ スポンサー企業・農協への打診開始
- ☐ 消防署への届出・避難計画の事前協議
- ☐ 保健所への事前相談・届出手続き開始
- ☐ 参加者募集の開始

2ヶ月前までに完了すべき事項（3月下旬）

- ☐ 会場の正式契約
- ☐ プレスリリース第1弾
- ☐ 材料調達先の確定
- ☐ ボランティアスタッフ募集
- ☐ スポンサー確約の取得（¥3,200,000目標、未達の場合は支出調整を決定）
- ☐ 自治体補助金の申請（糸島市・福岡県）
- ☐ クラウドファンディングの準備
- ☐ 参加者募集締切・目標2,200人の確保（最低2,100人、3月末）

1ヶ月前までに完了すべき事項（4月下旬）

- ☐ 練習会 第1回・第2回の実施完了（4/4土、4/12日）
- ☐ セクションリーダー候補の選出
- ☐ 審判員チームの編成
- ☐ 詳細な当日運営計画
- ☐ メディア取材の受付
- ☐ 独立証人（2名以上）の手配・出席確定

3週間前までに完了すべき事項（5月上旬）

- ☐ ギネスからの承認・ガイドライン受領の確認
- ☐ 練習会 全4回の実施完了（4/4, 4/12, 4/18, 4/26）
- ☐ 練習会参加状況の確認（未参加者へのリマインド連絡）
- ☐ 材料の最終発注
- ☐ スタッフ最終研修

2週間前までに完了すべき事項（5月中旬）

- ☐ セクションリーダー専用研修の実施
- ☐ プレスリリース第3弾

1週間前までに完了すべき事項（5月第4週）

- ☐ 会場設営リハーサル
- ☐ 審判員トレーニング
- ☐ 全機材の動作確認
- ☐ 緊急連絡網の確認

前日までに完了すべき事項

- ☐ 材料の搬入・保管
- ☐ 会場設営の完了
- ☐ スタッフ最終ブリーフィング
- ☐ メディア最終調整
- ☐ 天候・交通状況の確認

当日の確認事項

- ☐ スタッフ全員の出席確認
- ☐ 参加者受付の円滑な進行（署名入り参加者リストの回収含む）
- ☐ 全カメラの録画開始
- ☐ タイマーの正確な作動
- ☐ 審判員の配置完了
- ☐ 証人の立ち会い確認

まとめ:2026年5月の挑戦に向けて

おにぎり同時作成のギネス世界記録挑戦は、日本の食文化を世界に発信する素晴らしい機会であり、地域コミュニティの結束を強める力があります。現在の記録1,876人を上回る2,000人規模の挑戦は、**約3.5ヶ月の準備期間と約560万円の予算（うちギネス関連費約260万円）**があれば十分に実現可能です。

成功の鍵は5つ: 1. 綿密な計画と早期の準備開始 2. 地域組織（自治体・農協・企業）との強固な連携 3. 参加者への完結型練習会（全4回）とセクションリーダー制 4. 当日の完璧な運営体制（約300人のスタッフ＋110人のセクションリーダー） 5. 記録・証拠の確実な収集

この挑戦を通じて、参加者全員が日本の伝統的な食文化を再認識し、地域への誇りを深め、そして何より**世界記録保持者としての生涯の思い出**を手にすることができます。

あなたのギネス世界記録挑戦の成功を心から応援しています！具体的な実行に移す際は、各段階でさらに詳細なサポートも可能です。頑張ってください！